

【児童への話】

10月も下旬に入りました。5年生は先々週の女神湖での宿泊学習で、一回り大きく成長して帰ってきました。これからも自分のすべきことを責任をもってできる、立派な5年生でいてくださいね。来週からの6年生の日光も、今からとても楽しみです。

さて、校長先生は、この時期の秋の味覚が大好きです。栗やキノコ、ブドウやナシなどの果物、そして秋を代表するお魚「サンマ」など、秋ならではの美味しいものがたくさんあります。お魚のサンマは、秋に獲れるピカピカの刀のような形をしていて、もともとは細長い魚を意味する「狭真魚（さまな）」という呼び方が変化して付いた名前と言われています。

今日は、「お魚の名前の由来」について、皆さんにお話しします。お家で話すと、ヘー！と驚かれること請け合いですよ。

まず、皆が大好きなマグロです。古い書物によると、眼がとっても黒いことから眼黒、そして「眼黒（マグロ）」と言われるようになったそうです。お刺身やお鰯だけ食べていると、分からないことですね。

次に、サバです。他の魚と比べて歯が小さく細かいことから、小さい歯で「小歯（サバ）」となりました。では同じように、サメの名前の由来は何だと思いませんか。分かった人は賢いね。身体の大きさのわりに眼が小さいので、小さい眼で「小眼（サメ）」です。

次に、ニシンです。お正月に食べるカズノコの親魚ですね。これを食料として保存するときに身をふたつに割いていたことから、ふたつの身で「二身（ニシン）」となりました。人間の保存の仕方が名前になっちゃったんですね。

次に、ブリです。寒い季節のブリは、とっても脂がのって美味しいです。そのあぶらを縮めて「ぶら（ブリ）」となりました。

最後に、アジです。この名前の由来は有名ですね。焼いても干物でもお刺身でもとてもおいしい、味がいいことから、「味（アジ）」となりました。ブリやアジは、人間が食べてみた感想が名前になった面白い例でした。

以上、サンマも入れて7種類のお魚の名前の由来を紹介しました。いかがでしたか？

まだまだお魚にはたくさんの種類がありますので、その由来や生態、食べ方などについて調べてみるのも、これからの時期にオススメですよ。

人間は地球上で、知ることに関心をもち、喜びを感じられる唯一の生き物です。校長先生の大好きな落五の皆さんには、自分の知りたいことを積極的に調べて、学ぶことや知識を得ることの楽しさを知り、これからの人生をもっともっと豊かにして欲しいと思います。今日は、お魚の名前の由来について、お話ししました。

【本講話について】

天高く馬肥ゆる秋、子どもたちの学習活動が順調に進んでいます。落五の子どもたちは、学習や活動に真剣に取り組むことができる、とてもよい態度が身に付いています。主体的に学習に臨むことは、学習の密度を高め、より実りある学びへとつながっていくものです。

今日は雑学的な「知る喜び」を味わえるような講話をしてみました。ノーベル受賞者の話には、よく「知的好奇心をもち続けることの大切さ」が出てきます。可愛い落五の子どもたちは、知的好奇心を高め、知識の種類と幅を増やし、世界に羽ばたく力をじっくりと蓄えて欲しいと願っています。